

単元案の概要

単元名:韓中独連携プロジェクト_平昌オリンピックで目標言語圏の選手を応援しよう!					
科目名	韓国語	作成日	2017年9月1日	作成者	阪堂千津子
学年/年次	大学1・2年生	クラス人数	26名	使用教材	『ちよこっとチャレンジ!韓国語』ほか
話題分野	スポーツ	言語レベル	レベル1~2	必要時間数	授業内6時間+授業外の活動

単元目標

2018年2月に開催される平昌冬季オリンピック・パラリンピックを題材に、韓国について理解を深め、日韓の共通点と相違点について考察する。

*題材としては次のようなものをとりあげる。

- ①開催地の風土や特徴
 - ②人気がある・ない種目の日韓比較とその理由
 - ③注目される種目と選手
 - ④オリンピックに対する韓国人の意識や報道の仕方
 - ⑤韓国語を使った応援のしかた
- ・SNSを使って韓国語で現地の人にインタビューやアンケートをしたり、ネットや文献で資料を集めて共同でスライドを作成する。韓国語を使ってクラス内で発表し、意見を募る。
- ・さらに、多言語学習クラスにも発信し、また、多言語学習クラスからの成果物を鑑賞することにより、オリンピックと言う共通のテーマを軸に新たな視点を提供しあう。

めやす指標

[話題分野「地域社会と世界」を参考に、オリジナル指標を作成]

- ・目標言語圏の国名や主な都市名を言ったり書いたりできる。開催地の特徴や特産物について、簡単に説明できる。
- ・目標言語圏の人気のある選手の名前や競技の種類などを言ったり書いたりできる。
- ・目標言語圏でのオリンピックについての考えを簡単な言葉でやりとりすることができる。
- ・目標言語圏での応援の言葉を紹介し、実際に応援することができる。

学習活動の流れ

語彙・表現習得活動	学習シナリオ
韓国国内で人気があるスポーツ種目や人気があるアスリートを日本語学校に通う社会人に紹介してもらった。その後、人気のある種目や選手の専門用語(スキーの用語など)を調査した。オリンピックの歴史や開催地の風土や特徴については、新聞記事やインターネットのサイト等を利用し、内容をまとめた。各テーマについては、日本語に翻訳したうえで、多言語学習者にもわかりやすいように両語を併記したり、スライドは日本語で表記し韓国語で口頭発表するなどの方法で行った。	<p>＜場面状況＞</p> <p>平昌オリンピックは、韓国で行われるめったにない世界的なスポーツイベントである。そこで、学内外の多言語を学ぶ学生に、オリンピックを通して韓国および韓国語に関する情報を提供することで、韓国や韓国語に対して関心を高め、より深く理解してもらえるよい契機になるとえた。グループを作ってテーマを分担し、ソウルに住む先輩が務めている日本語学校に通う一般の韓国人に、オリンピックに対して抱いているイメージや意見を聞いたりアンケートをとったりして、与えられたテーマについて調べ、それらをまとめて、学内の成果発表会でプレゼンテーションをする。その後、修正を加え、学外の他言語学習者向けに発表した動画で配信する。また、同じテーマで他の国を扱った発表を鑑賞し、オリンピックを多様な視点を持って観戦できるように試みる。</p> <p>＜活動の流れ＞</p> <ol style="list-style-type: none"> ①プロジェクトのねらいと発表対象者(学内の主に韓国朝鮮語履修者と、他大学の他言語学習者の学生)を説明し、プロジェクト参加への同意を得る。韓国映画「国家代表」を鑑賞して、平昌オリンピック開催までの歴史的背景、韓国でのオリンピック種目や選手の状況などを概略的に理解し、共通点や相違点を予想する。 ②ソウルの日本語学校の学生とペアリングを実施。お互いにSNSなどで自己紹介のやりとりをする。 ③オリンピックについて関心のあるテーマ、調べてみたいテーマをクラスで討議し、グループで分担する。分担したテーマについて、ペアになった韓国人にどのような質問をしたらよいか、また、成果物のまとめ方についてグループ内で話し合う。 ④ペアになった韓国人と直接個別に連絡をとり、インタビューやアンケートを通じて意見や情報をまとめ、結果について考察する。日韓の比較が必要なテーマについては、クラス内でもアンケートを実施する。 ⑤スライド作成。 ⑥韓国語を学ぶ他クラスや他学年の学生を対象に、学内で成果発表。その後、他言語学習者へ向けた動画を撮影し、公開。コメントをもらう。 ⑦他大学のスライド(中国・ドイツからみたオリンピック)も鑑賞し、感想を記入。SNSを通じて、感想を交換し合う。

学習活動の流れ

形成的評価	総括的評価
毎回の進捗状況を、各回ごとに書記を決めてグループごとに記録し、提出する。毎回、授業時間内に行った作業と、次回の作業予定、また、次回の授業までに各自がやってくる個別作業の確認事項を記入する。	成果物(スライド・プレゼンテーション)について①鑑賞した他学部・他学年の学生。②クラスの学生同士③教師が評価を行った(成績に全体の40%を含める)。特にクラス内での相互評価では、言語領域(構成・表現/言語を使って他の人と繋がる)、文化領域(目標言語圏の風土や競技、選手に対する調査・発見・分析)、グローバル社会領域(チームワーク・協働/ICT活用)での評価を行い、自由記述で、プロジェクトを通じての気づきを記入。

3×3+3 分析表（韓国語）

	言語領域	文化領域	グローバル社会領域
わかる	・(冬季) オリンピックに関わる用語、種目名や応援の言葉などの韓国語を理解し、実施に応援することができる。	・日本と韓国の歴史認識の差から、オリンピックに対する考え方の違いに気づく。 ・日本と韓国で、オリンピック選手(候補者)や種目などの置かれている立場の違い(国家代表への待遇)に気づく。	・オリンピックはただスポーツの祭典であるというだけではなく、様々な政治的、社会的、国際的問題が複合的に存在していることがわかる。
できる	・(冬季) オリンピックに関する態度や考えについて、韓国語母語話者に尋ねるためのアンケートを韓国語で作成し、その回答内容を理解することができる。 ・(冬季) オリンピックに関する韓国語の文献やウェブサイトを見て、内容を理解し、成果物にまとめることができる。	・(冬季) オリンピックに対する態度や考え方などの日韓での共通性や相違性などを分析することができる。	・(冬季) オリンピックに関わる問題について、グループで調査を進め、調査結果に基づいて、自分たちの考えを表明することができる(高度思考)。 ・SNS やEメール等を活用して、韓国語母語話者とやりとりをしたり、ネットなどから情報収集を行うことができる(ICT 活用)。 ・グループで分担したり協力したりしながら成果物(スライド)をまとめ、発表することができる(協働)。
つながる	・韓国語母語話者と SNS やEメールなどを用いて、オリンピックに関わる事柄について韓国語で情報交換をしたり、アンケートをとったりすることができる。	・韓国語母語話者に SNS などで、(冬季) オリンピックに関わる事柄について、日本と韓国の文化や習慣・考え方の違いなどを考慮して質問し、情報を得ることができる。	・SNS やEメール等を活用して韓国語で収集した情報を日韓対訳の成果物にまとめ、韓国語や他言語クラスなどに向けて発信、聞き手が平昌オリンピックに関心を持つように働きかけることができる。 ・他言語クラスの成果物を鑑賞したり、自分たちの発表について多言語クラスからフィードバックをもらうことで、より多角的な視点からオリンピックを考えることができる。
三連携	<p>【学習者】グループ内での話し合いや協働</p> <p>【教室外】アンケートに協力してくれた韓国語母語話者や日本語母語話者、他大学他言語クラスの学生、インターネット</p> <p>【他教科】他の韓国語科目、校内の他学年、地域社会など</p>		